

令和2年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第4号（果樹）



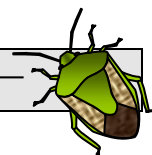
令和2年7月17日発表 広島県西部農業技術指導所
対象期間 令和2年7月17日～8月上旬
※次回の予報は8月10日頃です。

もくじ

1	果樹カメムシ類の発生状況	…P1
2-(1)	かんきつ病害虫の現況と予報（概要）	…P2
2-(2)	かんきつ病害虫の現況と予報（詳細）	…P3～5
3	気象状況	…P6
4	農業危害防止運動について	…P6
5	お知らせ	…P6

※かんきつ地帯は南部を以下の通りに区分
けしています。
西部：竹原市以西の沿岸島しょ部
東部：三原市以东の沿岸島しょ部

1 果樹全般 —果樹カメムシの発生に注意しましょう—



広島県では、6月12日付で果樹カメムシ類に関する注意報を発表しています。

県内のチャバネアオカメムシ集合フェロモントラップへの累積誘殺数（5月第1～7月第2半旬）は、5地点中4地点で「多」～「やや多」となっています。

表. 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1～7月第2半旬） 単位：頭

調査地点	本年	現況	平年※1	多発年※2	多発年以外※3
東広島市安芸津町	387.5	並	428.4	800.8	268.9
福山市神辺町	187.2	多	79.0	100.1	69.9
世羅郡世羅町	313.0	やや多	239.9	623.1	130.4
庄原市東城町	103.0	やや多	48.6	97.0	27.9
庄原市高野町	164.0	やや多	88.9	243.3	19.2

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を表しています。

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成22、24、26年）の平均値を表しています

※3 多発年以外とは、平成22年以降で、平成22、24、26年を除いた年の平均値を表しています

誘殺状況など今後の情報に注意するとともに、ほ場内をよく見回り、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。

※ 最新の調査データは、広島県のホームページをご覧ください（本予報 P.7 の5お知らせを参照）。

2-(1) かんきつ病害虫の現況と予報(概要) 7月13日～15日調査

病害虫名		現況	予報	防除上の注意事項(防除時期)
かいよう病		多	多	◆ 台風等強風雨前の防除を徹底する。 ◆ 葉斑発生防止のため、銅水和剤の散布時には、クレフノンを加用する。 ◆ ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除する。 ◆ 発生源となる罹病葉、枝は速やかに除去し、圃場から持ち出す。
黒点病	ウンシュウ	並	やや多	◆ 防除間隔は長くても1ヶ月以内とする。また前回防除してからの降水量が250mmを超えたら追加防除する。 ◆ 樹上の枯れ枝および園内の剪定枝は伝染源となるため除去し、園外で処分する。
	レモン ネーブル	やや多 ^{注)}		
そうか病		並 ※一部で発生	—	◆ 発病した葉や枝は伝染源となるので除去する。 ◆ 降雨後等に樹体が濡れた状態が続くと発生しやすいので、通風、採光をよくする。
ミカンハダニ		少	やや少	◆ 8月以降に発生すると、果実の外観品質を損なうので、基幹防除を徹底する。 ◆ 薬剤が葉裏にもかかるよう丁寧に散布する。 ◆ 抵抗性個体の出現を防ぐため、同系統の薬剤の連用は避ける。 ◆ 多発園は防除の徹底を図る。
ミカンザビダニ		並 ※一部で発生	並	◆ 被害を確認してから防除では遅いため、梅雨明け直後の防除を徹底する。 ◆ 特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意する。
ナシマルカイガラムシ		並 ※一部で発生	並	◆ 孵化幼虫時期に薬剤散布を行うと効果が高い。 ◆ 発生が見られるほ場では、第2世代幼虫発生盛期の8月上中旬までに防除を行う。
ヤノネカイガラムシ		並 ※一部で発生	並	◆ 発生が見られるほ場では、第2世代幼虫期の8月中下旬に防除を行う。
イセリアカイガラムシ		並 ※一部で発生	並	
チャノキロアザミウマ		—	—	◆ 第4世代、第5世代の発生ピークは、気温が平年並みに推移した場合、それぞれ7月31日、8月17日と予測される。 ◆ 発生ピーク予測日の7日前～発生ピーク当日の防除が、効果が高いとされている。

注) レモン・ネーブルの黒点病は、平成26年から調査を開始しており、レモンでは過去6年間で2番目、ネーブルでは過去6年間で3番目に高い数値となったため、「やや多」と判定した。

2-(2) かんきつ病害虫の現況と予報(詳細)

かいよう病



現況

多

予報の根拠

(+) : 多発要因、(±) : 平年並み、(-) : 少発要因

予報

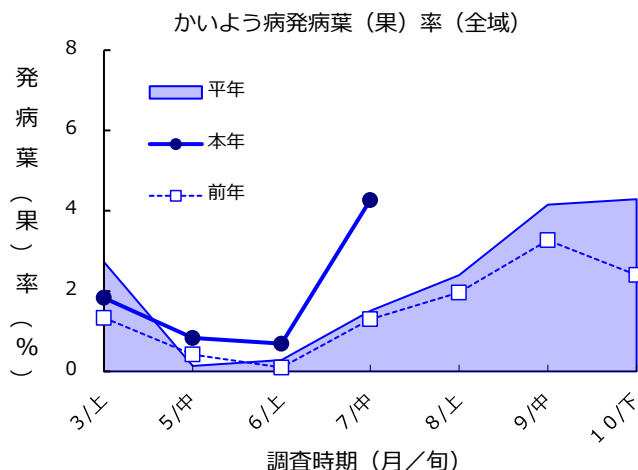
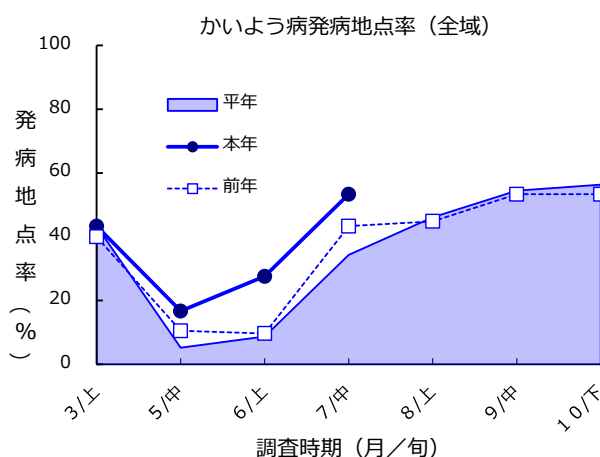
多

- ◆巡回調査では、平年より多い発生であった(+).
- ◆向こう1か月の降水量は、少ない20%、平年並40%、多い40%と予想されている(+).

【防除上の注意事項】

- ◆ネーブル、レモン、はるみなどの品種は発病しやすいので注意する。
- ◆罹病した枝葉および果実は伝染源となるので、速やかに除去し、圃場外に持ち出すとともに、基幹防除を徹底する。
- ◆銅剤散布にあたっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せず散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上あける。
 - ・無機銅剤(コサイド剤など)の散布を行う際には、クレフノン(希釈倍数: 200倍)を加用する。
 - ・高温時に散布を行うと薬害が発生しやすいので注意する。

【巡回調査データ】



(注) レモン、ネーブルで調査

※調査対象部位は、3月/上;旧葉、5月/中~7月/中;新葉、8月/上~;果実

【発生量について】

「予報」「現況」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分の方法は、原則として、過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。

- 「多」 : 1番目(最多年)と同程度以上
- 「やや多」 : 2~3番目と同程度
- 「並」 : 4~7番目と同程度
- 「やや少」 : 8~9番目と同程度
- 「少」 : 10番目(最少年)と同程度以下

黒点病



現況

ウンシュウ：並
レモン・ネーブル
：やや多

予報

やや多

予報の根拠

(+)：多発要因、(±)：平年並み、(-)：少発要因

◆巡回調査では、ウンシュウは平年並であったが、レモン・ネーブルでは平年よりやや多い発生であった(+)。

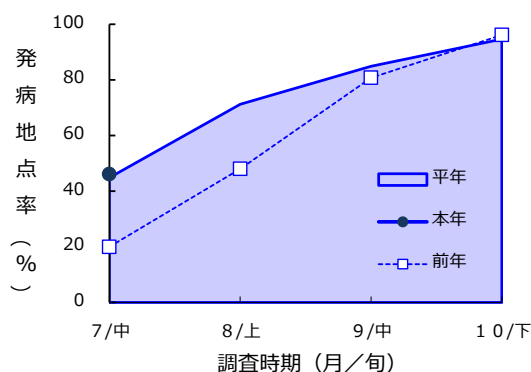
◆向こう1か月の降水量は、少ない20%、平年並40%、多い40%と予想されている(+)。

【防除上の注意事項】

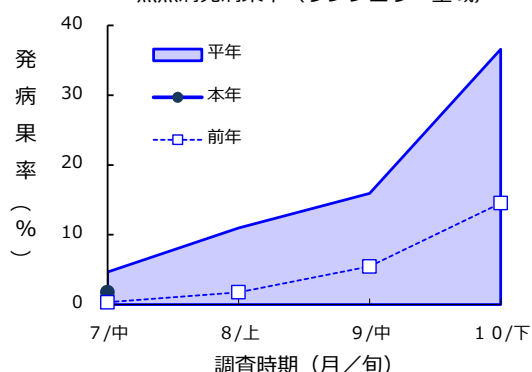
◆防除間隔は長くても1ヶ月以内とする。また、前回防除以降、累積降水量が250mmを超えたら追加防除を行う。

【巡回調査データ】

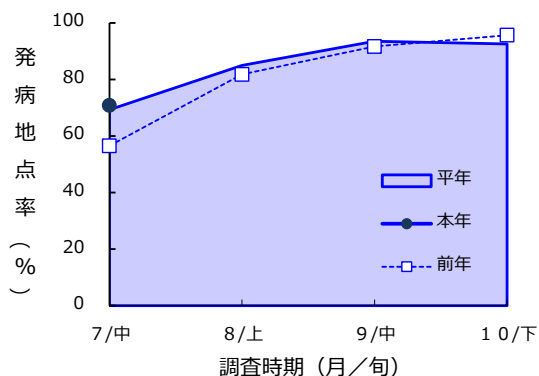
黒点病発病地点率（ウンシュウ 全域）



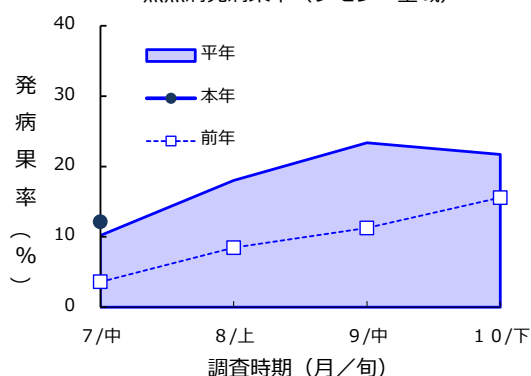
黒点病発病果率（ウンシュウ 全域）



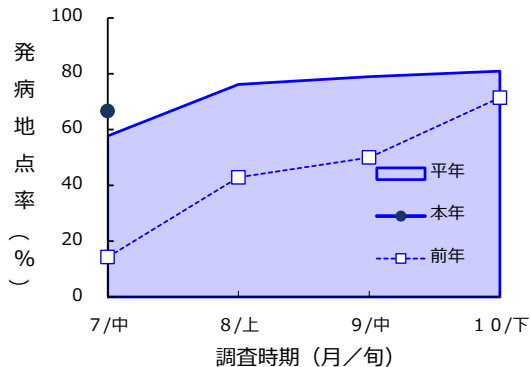
黒点病発病地点率（レモン 全域）



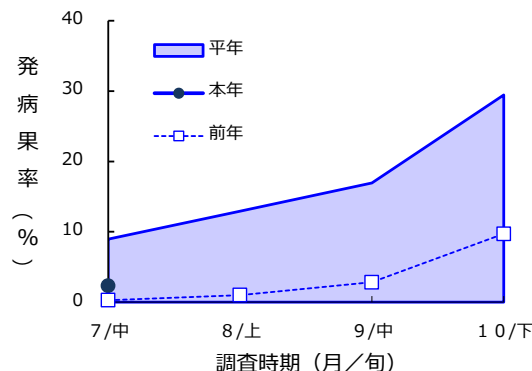
黒点病発病果率（レモン 全域）



黒点病発病地点率（ネーブル 全域）



黒点病発病果率（ネーブル 全域）



(注) レモン、ネーブルの平年値は平成26年からの6年間のデータ

ミカンハダニ



現況

予報の根拠

(+) : 多発要因、(±) : 平年並み、(-) : 少発要因

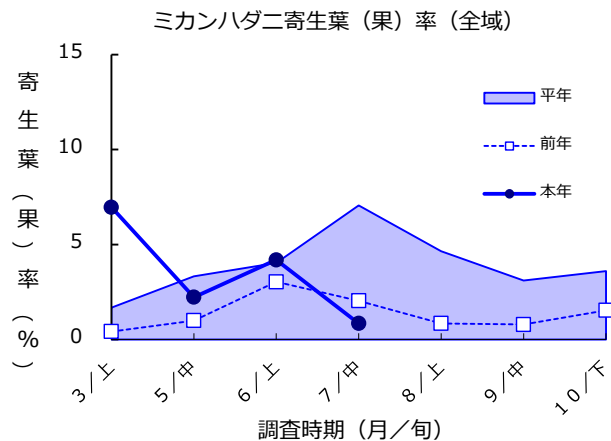
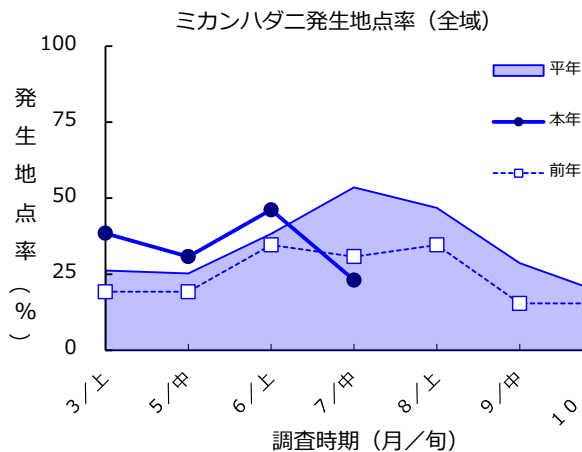
少

予報

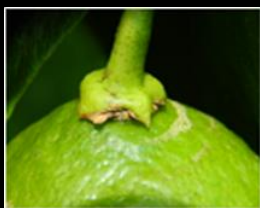
やや少

- ◆ 巡回調査では、平年より少ない発生であった(-)。
- ◆ 向こう1か月の降水量は、少ない20%、平年並40%、多い40%と予想されている(±)。
- ◆ 向こう1か月の気温は、後半に平年並および高い確率が40%と予想されている(+)

【巡回調査データ】



チャノキイロアザミウマ



チャノキイロアザミウマは、防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、かんきつ園に飛来する。果皮を加害されると外観が著しく悪化する。この虫は、気温の推移から成虫の発生が多くなる時期(発生ピーク)を予測することが可能である。防除適期は、発生ピークの7日前～ピーク当日が効果的であることが分かっている。

例年被害がみられるほ場では表を参考に、発生時期に合わせた防除を行う。

表. チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日(生口島アメダスデータに基づく)

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第4世代	第5世代
平年より高い(+1℃)	7月30日	8月15日
平年並	7月31日	8月17日
平年より低い(-1℃)	8月1日	8月19日

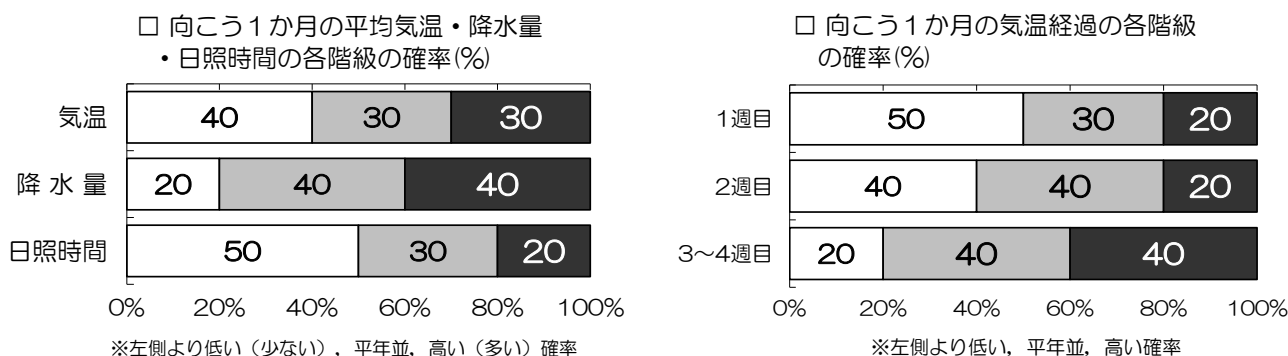
3

向こう1か月の気象情報

中国地方1か月予報

(広島地方気象台7月16日発表、7月18日から8月17日までの天候見通し)

- ・ 平年に比べて晴れの日が少ないでしょう。
- ・ 向こう1か月の降水量は、平年並みまたは多い確率とともに40%です。日照時間は、少ない確率が50%です。
- ・ 週別の気温は、1週目は低い確率が50%、平年並みが30%、2週目は低いまたは平年並みである確率がともに40%、3～4週目は平年並または高い確立がともに40%です。



4

農薬危害防止運動について

広島県では、農薬による危害の未然防止を図るため、6月1日から8月31日までの3ヶ月間を農薬危害防止の重点期間と定め、農薬販売者及び農薬使用者に対する関係法令等の周知や農薬の適正販売、適正使用及び保管管理のさらなる周知・徹底を図ることとしています。

広島県 農薬危害防止運動

検索

掲載アドレス→ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/84/1305610235740.html>

5

お知らせ

病害虫発生予察情報やフェロモントラップ等の調査データは、広島県ホームページで閲覧できます。

広島県 ひろしま農業情報

検索

掲載アドレス→ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/nougijutsu/>

今回の病害虫発生予察情報に関するお問合わせ先
 広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム
 〒739-0151 東広島市八本松町原 6869
 電話：082-420-9662 (直通)